

# 平成 30 年度に感染症発生動向調査から検出されたウイルス

齋藤麻理子 篠田大輔 高橋裕\* 塚越博之 坂野智恵子

## Viral Agents Surveillance Report in

## Gunma Prefecture from April, 2018 to March, 2019.

Mariko SAITO, Daisuke SHINODA, Yu TAKAHASHI\*, Hiroyuki TSUKAGOSHI, Chieko SAKANO

### 1. はじめに

感染症発生動向調査事業に係わる病原体検査は、感染症法において病原体の動向を短期的および中長期的に把握することを主眼としている。当事業は、病原体に関する情報を詳細に解析し、医療機関等関係機関への情報還元が主体となっている。本稿では、平成 30 年度（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）に病原体検査定点を受診した患者の検体から分離・検出されたウイルスの概要を報告する。

### 2. 材料および方法

定点に指定されている医療機関に受診したウイルス性疾患（疑いを含む）患者から得られた咽頭ぬぐい液、結膜ぬぐい液、糞便、髄液等の 206 検体を材料とした（表 1）。ウイルス分離・同定および PCR 法を主体とした遺伝子検査は定法に従った（Schmidt, 1989）。

### 3. 結果および考察

初診時臨床診断別月別検体数を表 1、初診時臨床診断別ウイルス検出数を表 2、初診時臨床診断別ウイルス検出数を表 3 に示した。206 検体のうち 157 検体（重複も含めた検出数は 160 株）からウイルスが検出され、検出率は 76.2%であった。

#### 3.1. インフルエンザ

142 検体の検査を行った結果、116 検体でインフルエンザウイルスを検出し、検出率は 81.7%であった。内訳は、AH1pdm09 亜型が 42 件、AH3 亜型が 73 件、B 型が 1 件であり、AH3 亜型が最も多く検出された。AH1pdm09 亜型は 11 月から検出されはじめ、1 月が最も多く検出

された。一方、AH3 亜型は 12 月頃より検出数が増加し、2 月が最大となった。B 型は 3 月に 1 件検出されたのみであった。国立感染症研究所（2019）によると、2018/19 シーズンのインフルエンザは、前半は AH1pdm09 亜型を中心に、後半は AH3 亜型が大きく増加し、B 型は検出数が少なくシーズン終盤に検出された。以上から、本県における平成 30 年度のインフルエンザウイルスの検出状況は、全国と同様であったと考えられる。また、検出された AH1pdm09 亜型の中から 20 株を選定しオセルタミビル耐性マーカーである H275Y について調べた結果、耐性マーカーは検出されなかった。

#### 3.2. 流行性角結膜炎

25 検体の検査を行った結果、23 検体でアデノウイルスを検出し、検出率は 92.0%であった。23 検体の中では、型別が困難である株（型不明）が 14 件（60.9%）と最も多かった。近年では型別困難な株が増加していると考えられることから、今後も検出されるアデノウイルスの動向を注意深く見守っていく必要がある。

#### 3.3. 手足口病

9 検体の検査を行った結果、7 検体でウイルスを検出した。そのうちエンテロウイルス 71 型のみが検出されたのが 5 検体、ライノウイルスのみが検出されたのが 1 検体であった。エンテロウイルス 71 型とライノウイルスが重複して検出されたのが 1 検体であった。結果として、エンテロウイルス 71 型が 6 検体から検出され最も多かった。国立感染症研究所感染症疫学センター（2019）によると、全国の手足口病患者からもエンテロウイルス 71 型が多く検出されていたため、全国と同様の流行であった。

\* 県立精神医療センター

## 謝辞

本調査にあたり、御協力を頂いた関係医療機関の方々に深謝いたします。

## 文献

Schmidt NJ. 1989. Cell Culture Procedures for Diagnostic Virology. In Diagnostic Procedures for Viral, Rickettsial and Chlamydial Infections, 6th ed. 51-100. American Public Health Association INC, Washington.

国立感染症研究所, 厚生労働省結核感染症課.  
今冬のインフルエンザについて(2018/19 シーズン). <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/influ/fludoco1819.pdf> (2019年7月閲覧)

国立感染症研究所感染症疫学センター. 手足口病患者から分離・検出されたウイルス, 2015~2019年(病原微生物検出情報). <https://nesid4g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data37j.pdf> (2019年7月閲覧)

表1 平成30年度初診時臨床診断別月別検体数

疾患名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
インフルエンザ	9	1		1				4	19	48	40	20	142
感染性胃腸炎	3	1	1	1				1				1	8
無菌性髄膜炎	2	1	3										6
手足口病		2	3	2	1				1				9
流行性角結膜炎	1	5	1	2	1	2	3	2	6	2			25
ヘルパンギーナ			1		2								3
咽頭結膜熱	1	3	1						1				6
流行性耳下腺炎	1												1
突発性発疹症			1		1	1							3
その他			2	1									3
合計	17	13	13	7	5	3	3	7	27	50	40	21	206

表2 平成30年度初診時臨床診断月別ウイルス検出数

ウイルス	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
インフルエンザ AH1pdm09	1								1	12	21	4	3	42
AH3	7	1							2	6	18	27	13	74
B													1	1
アデノ	2		1			1				1				3
	3						2			2	1			5
	5		1											1
	6	1	1											2
	37										1			1
	54	1												1
	56				1									1
型不明			5	1			2	2	4					14
ムンプス		1												1
エンテロ	71		2	2	1	1								6
ライノ				1						1				2
コクサッキー	A4					1								1
ノロ	GII.2	1												1
	GII.3								1					1
ロタ	A群G3												1	1
アストロ		1												1
単純ヘルペス		2		1										1
合計		13	11	4	3	3	2	2	6	26	41	31	18	160

表3 平成30年度初診時臨床診断別ウイルス検出数

ウイルス	疾患名	インフル エンザ	感染性 胃腸炎	無菌性 髄膜炎	手足口病	流行性 角結膜炎	ヘルパン ギーナ	咽頭 結膜熱	流行性 耳下腺炎	突発性 発疹症	その他	合計
インフルエンザ	AH1pdm09	42										42
	AH3	73							1			74
	B	1										1
アデノ	2					1		2				3
	3					5						5
	5							1				1
	6		1					1				2
	37					1						1
	54					1						1
	56					1						1
	型不明					14						14
ムンプス									1			1
エンテロ	71				6							6
ライノ					2							2
コクサッキー	A4						1					1
ノロ	GII.2		1									1
	GII.3		1									1
ロタ	A群G3		1									1
アストロ			1									1
単純ヘルペス	2			1								1
合計		116	5	1	8	23	1	4	2	0	0	160